

題材名	1. 音楽で みんなと つながろう	扱い時数の目安 4時間
題材の目標	(1) 曲想と拍などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、歌唱の技能を身に付ける。 (2) 音色、リズム、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (3) 曲想を感じ取って音楽を聴いたり、声を合わせて歌ったりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、日本や世界の遊び歌、踊りの音楽に親しむ。	
題材の意図		
学年最初の本題材では、これから始まる2年生の音楽の授業に、子供たちが意欲をもって主体的に取り組むことができるように、友達と協働しながら表現と鑑賞の学習を通して音楽の楽しさを感じていきます。 この題材では、拍を感じ取りながらいろいろな国の挨拶の言葉を覚えて歌ったり、世界の遊び歌やいろいろな国の踊りの音楽を聴いて楽しんだりします。その際、歌いながらみんなで遊んだりリズム打ちをしたり、踊りの様子を想像しながら音楽を聴いて体を動かしたりします。このような様々な活動を通して、一人一人の発想を生かしながら学級全体をまとめていき、一人では体験することができない表現の楽しさや、友達と一緒に歌う喜びなどを味わえるようにしましょう。		
学習指導要領との関連		
A 表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ) B 鑑賞 ア、イ 〔共通事項〕※ ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、リズム、強弱、拍 イ 呼びかけとこたえ		

※・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素のうち、アは音楽を特徴付けている要素、イは音楽の仕組み核となるものについては、**太字**で示しています。

・身近な音符、休符、記号や用語

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と拍などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。（歌・鑑）	思① リズム、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 曲想を感じ取って音楽を聴いたり、声を合わせて歌ったりする学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・鑑）
②技 思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能、互いの歌声を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② 強弱、拍、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌）	
③知 曲想と拍などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑）		


題材名	2. はくの まとまりを かんじとろう	扱い時数の目安
		6時間
題材の目標	(1) 曲想とリズムや拍などの音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。	
	(2) リズム、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 拍子の違いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組む。	
題材の意図		
この題材では、1年生で身に付けた拍に対する感覚を基に学習を展開します。ここでは、2拍子と3拍子の違いを感じ取りやすい表現と鑑賞の教材が配置されています。それらの教材を生かして体を動かしながら歌ったり聴いたりする活動を通して、子供たちが2拍子と3拍子の違いや特徴を感得できるように学習を進めていきます。		
また、常時活動として扱う「リズムあそび」を設け、友達とリズムリレーをしたり、友達とペアになってリズム打ちをしたりして、楽しみながら拍に対する感覚をより一層高めるとともに、拍子感を養うようにします。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ウ) (2)器楽イ(ア)、ウ(ウ) (3)音楽づくりア(ア)、イ(ア)、ウ(ア)		
B鑑賞 ア、イ		
〔共通事項〕		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア リズム、旋律、拍		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想とリズムや拍などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。（歌・鑑）	思① リズム、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌）	態① 拍子の違いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・鑑）
②技 思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② リズム、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	

＊「2びょうしでリズムあそび①」「3びょうしでリズムあそび」は2拍子や3拍子の感覚を養うリズムの活動のため、本題材では器楽や音楽づくりの評価規準を設定していません。

題材名	3. ドレミで あそぼう	扱い時数の目安
		10時間
題材の目標	(1) 曲想と旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、歌唱や器楽の技能を身に付ける。	
	(2) 音色、旋律、音の重なり、音楽の縦と横との関係などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	
	(3) 互いの声や音を聴き合いながら階名で歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組む、音の高低に対する感覚を養う。	
題材の意図		
この題材は、1年生で扱った音程感覚を養う学習を、より進めることに重点を置いて設定しています。音の高低を感じ取りながら聴いたり歌ったりする活動を通して、音の高低に対する感覚を養うようにします。その際、「ドレミ風船」を使って、音の高低を手の動きと関連付けて行うことにより、子供たちは楽しみながら体験的に音の高低を感じ取り、音程感覚をより着実に育てていきます。また、鍵盤楽器については、階名唱を基に旋律を演奏する技能を養ったり、吹き方の工夫を通して表現の仕方を学んだりします。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(7)(4)(9) (2)器楽ア、イ(7)(4)、ウ(7)(4)(9) (3)音楽づくりア(7)、イ(7)、ウ(7) B鑑賞 ア、イ 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、リズム、旋律、音の重なり、フレーズ イ 音楽の縦と横との関係		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。（歌・器・鑑）	思① 音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	態① 互いの声や音を聴き合いながら階名で歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器・鑑）
②技 思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② 音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。（器）	
③知・技 楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、範奏を聴いたり、絵譜などを見たりして演奏する技能、音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思③ 旋律、フレーズ、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌）	
④技 思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や楽器の音を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。（歌・器）	思④ リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。（歌・器）	

*「 で せんりつあそび」は音を選んだりつなげたりして旋律をつくる学習につなげる旋律遊びの活動のため、本題材では音楽づくりの評価規準を設定していません。□

題材名	4. せいかつの 中に ある 音を 楽しもう	扱い時数の目安 6時間
題材の目標	(1) 曲想と音色などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり、身の回りの様々な音の特徴や音のつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能や、音楽づくりの技能を身に付ける。 (2) 音色、強弱、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかやどのように音を音楽にしていくなかについて思いをもつ。 (3) 身の回りにある音や、擬声語を使った音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習活動に取り組み、身の回りの音への意識を高める態度を養う。	
題材の意図		
子供たちを取り巻く環境は、自然や社会の目に見える現象だけでなく、耳に入る音や音楽もその一つです。ふだん何気なく聞いている音や音楽がどのような意味をもち、人間や動植物にどんな影響を及ぼすのかという研究も行われているほどです。ここでは、低学年なりにそうした「音環境」に気付き、その音を自分なりに捉えて声で表現し、その声を使って音楽をつくる学習を展開します。次に、鳴き声を声で表現する学びを生かして、歌詞の表す様子を想像しながら歌う学習につなげていきます。このような学習を通して、身近なもので音楽をつくることができると実感したり、身の回りの音の意味を考えたりして、自ら音を出すときにどうしたらよいのか、生活や社会とどのように関わっているのかなどを考えることができる子供の成長を目指します。		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ) (3)音楽づくりア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ) 〔共通事項〕 ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素 ア 音色、旋律、強弱、音の重なり イ 反復		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 身の回りで聴こえる鳴き声の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。（づ） ②技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ） ③知 音のつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。（づ） ④技 思いに合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ） ⑤知 曲想と音色などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。（歌） ⑥技 思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思① 音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声遊びを通して、音楽づくりの発想を得ている。（づ） 思② 音色、強弱、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもっている。（づ） 思③ 音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌）	態① 身の回りにある音や、擬声語を使った音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。（歌・づ）

題材名	5. リズムを かさねて 楽しもう	扱い時数の目安
		8時間
題材の目標	(1) 曲想とリズムや音の重なり、拍などの音楽の構造との関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、器楽の技能を身に付ける。	
	(2) リズム、音の重なり、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつ。	
	(3) 拍子やリズムを意識して歌などに合わせてリズム伴奏をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組み、拍子やリズムに対する感覚を養う。	
題材の意図		
<p>この題材では、「2. はくの まとまりを かんじとろう」で感じ取った2拍子と3拍子との感じの違いを思い出し、拍にのってリズム唱したり、手拍子や打楽器でリズムを打ったりする活動を進めます。リズムを重ねて演奏する学習を進めながら、リズム伴奏に重ねて歌う楽しさを味わい、2拍子や3拍子の音楽がもつよさや面白さを感じていきます。</p> <p>リズム伴奏を友達と分担して演奏したり、それに合わせて歌ったりする協働的な学習を通して、拍子やリズムに対する感覚を高めるようにします。そうした活動の中で、リズム譜を見て演奏するための視奏の基礎となる力を養い、あわせて拍を意識しながら互いの音を聴いて演奏する技能も育てていきましょう。</p> <p>また、2年生からは音符や休符の学習も始まります。ここでは、表現の活動を通して、音符や休符の長さの違いに気付いたり、リズム譜を見て演奏することに慣れ親しんだりするようにします。</p>		
学習指導要領との関連		
A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ) (2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)		
(3)音楽づくりア(ア)、イ(ア)、ウ(ア)		
〔共通事項〕		
・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア リズム、音の重なり、拍		
・身近な音符、休符、記号や用語		
4分音符、4分休符、8分音符、8分休符		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想とリズムや音の重なり、拍などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（器）	思① リズム、音の重なり、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。（器）	態① 拍子やリズムを意識して歌などに合わせてリズム伴奏をすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。（器）
②技 思いに合った表現をするために必要な、範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）		
③技 思いに合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や歌声、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）		
④知・技 楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）		

題材名	6. くりかえしを 見つけよう	扱い時数の目安
		6時間
題材の目標	(1) 曲想と反復などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり、リズムやフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能や、反復を用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付ける。 (2) リズム、旋律、フレーズ、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと 感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかやリズムの組み合わせ方を工夫し、どのよう に音を音楽にしていくなについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (3) 旋律やリズムの反復に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な 音楽に見られる旋律やリズムの反復に親しむ。	
題材の意図		
<p>この題材では、表現や鑑賞の学習を通して、音楽の仕組みの一つである「反復」が生み出す、旋律やリズムが繰り返される音楽の面白さに気付いていくようにします。</p> <p>歌唱教材「かねが なる」では、手を上下に動かして音の高さに気を付けながら歌ったり、鐘の音を表す擬音語で歌ったりして、短い旋律が反復されてできている曲であることに気付くようにします。さら に、音楽づくりの教材「おまつりの 音楽」では、太鼓の口唱歌やリズムカードを活用して、反復を使って8拍のリズムをつくります。</p> <p>こうした表現教材と関連させながら、鑑賞曲「トルコ こうしんきょく」では、二つの旋律がそれぞれ繰り返される面白さに注目しながら音楽を聴き、曲のよさを感じ取ります。</p> <p>「反復」は音楽のいろいろなところで見付けることのできる音楽の仕組みです。この題材で学んだ「反復」の面白さを、今後の学習につなげていけるようにしましょう。</p>		
学習指導要領との関連		
A 表現 (1)歌唱 ア、イ、ウ (ア)(イ)(ウ) (3)音楽づくり ア (イ)、 イ (イ)、 ウ (イ)		
B 鑑賞 ア、イ		
〔共通事項〕		
・ 本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素		
ア リズム、旋律、強弱、拍、フレーズ		
イ 反復		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知・技 曲想と反復などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思① 旋律、フレーズ、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌）	態① 旋律やリズムの反復に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・づ・鑑）
②知 リズムやフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなど関わらせて気付いている。（づ）	思② リズム、拍、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなについて思いをもっている。（づ）	
③技 思いに合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ）	思③ 旋律、強弱、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	
④知 曲想と反復などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑）		

題材名	7. いろいろな がっきの 音を さがそう	扱い時数の目安
		6時間
題材の目標	<p>(1) 曲想と音色などの音楽の構造との関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わり、楽器の音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や歌声、伴奏を聴いて、音や声を合わせて表現する技能や、音色に気を付けて、打楽器を演奏する技能、反復や呼びかけとこたえを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付ける。</p> <p>(2) 音色、リズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかや楽器やリズムの組み合わせ方を工夫し、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。</p> <p>(3) 楽器の音色に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる楽器の音色に親しむ。</p>	
題材の意図		
<p>この題材では、身近にあるいろいろな打楽器が個々にもつ音色のよさや、それらの組合せの面白さを感じ取りながら、表現の仕方を工夫したり音楽を聴いたりする学習を進め、音色に関する感覚をさらに養っていきます。</p> <p>打楽器のいろいろな演奏の仕方を試しながら音色に親しんだ1年生の学習を踏まえて、本題材では、鑑賞を通して打楽器の音色のよさなどを味わいながら、打楽器の音色への興味をさらに引き出し、それをきっかけにして、音楽づくりや器楽の学習へと関連付けて展開します。</p> <p>打楽器の音色を聴き比べたり、音やリズムの組合せによる響きの違いを感じ取ったりするために行う音楽づくりの学習では、「打楽器を使って音でお話をする」といった、音によるコミュニケーションを図りながら、音楽の仕組みの一つ「呼びかけとこたえ」の働きが生み出す楽しさを感じ取ることができます。</p>		
学習指導要領との関連		
<p>A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(ク)(ケ)(コ) (2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(ク)(ケ)(コ)</p> <p>(3)音楽づくりア(イ)、イ(ア)(イ)、ウ(イ)</p> <p>B鑑賞 ア、イ</p> <p>[共通事項]</p> <p>・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素</p> <p>ア 音色、リズム、音の重なり</p> <p>イ 反復、呼びかけとこたえ</p> <p>・身近な音符、休符、記号や用語</p> <p>2分音符</p>		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と音色などの音楽の構造との関わりについて気付いている。 （鑑） ②知・技 音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ） ③知・技 曲想と音色などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、打楽器を演奏する技能や、互いの楽器の音や歌声、伴奏を聴いて、音を合わせて表現する技能を身に付けて、演奏したり歌ったりしている。（器・歌）	思① 音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑） 思② 音色、リズム、反復、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもっている。（づ） 思③ 音色、リズム、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。（器）	態① 楽器の音色に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（器・づ・鑑）

題材名	8. ようすを おもいうかべよう	扱い時数の目安 7時間
題材の目標	(1) 曲想と音色や旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、歌唱や器楽の技能を身に付ける。 (2) 音色、速度、旋律、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (3) 曲想と音楽を形づくっている要素や歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組む。	
題材の意図		
<p>この題材では、歌詞が表す様子や音楽を聴いて想像したことと、音楽を形づくっている要素などとの関わりについて気付き、曲のよさや面白さを見いだしながら聴いたり、思いをもって表情豊かに表現したりすることができるように学習を進めます。</p> <p>鑑賞の学習においては、想像力を働かせて音楽と関わるができるように、曲の感じに合わせて体を動かしたり、聴いて感じたことを友達と伝え合ったりして、場面の様子やその変化を想像しながら、曲全体を味わって聴くようにします。</p> <p>また、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、言葉の感じを生かした歌い方や声の出し方を工夫して歌う学習を深め、思いをもって歌うことの大切さを押さえるとともに、きれいな発音や発声に気を付けて歌う習慣を身に付けるようにしましょう。</p>		
学習指導要領との関連		
<p>A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(7)(4)(7) (2)器楽ア、イ(7)(4)、ウ(7)(4)(7)</p> <p>B鑑賞 ア、イ</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素</p> <p>ア 音色、リズム、速度、旋律、強弱</p> <p>イ 反復</p>		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知・技 曲想と音色や旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌） ②知 曲想と音色や旋律などの音楽の構造との関わりについて気付いている。（器・鑑） ③知・技 楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思① 音色、旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑） 思② 音色、速度、旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌） 思③ 音色、旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。（器）	態① 曲想と音楽を形づくっている要素や歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器・鑑）

題材名	9. 日本の うたで つながろう	扱い時数の目安
		4時間
題材の目標	<p>(1) 曲想と旋律や拍などの音楽の構造との関わり、言葉の抑揚について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いに合った表現や、発想を生かした表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能や、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。</p> <p>(2) 旋律、拍、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、旋律遊びを通して、音楽づくりの発想を得たり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。</p> <p>(3) わらべうたに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、ほかのわらべうたにも親しむ。</p>	
題材の意図		
<p>この題材では、友達と一緒に遊びながら歌う楽しさや喜びを味わう活動を通して、我が国や郷土の音楽のもつ雰囲気や表情などに自然に親しむことをねらっています。教材の配列も、「名前でせんりつあそび」などの活動を通して、わらべうたを音楽としてより身近に感じ取ることができるように考慮されています。また、友達と遊んだり歌ったりする活動を通して、無理なく拍感を培ったり、我が国の音階など伝統的な音感覚を養ったりして、我が国の音楽らしさが感じられる旋律づくりをするための素地をつくっていきます。</p> <p>こうした学習を踏まえ、ふだんの生活の中の遊びとわらべうたが関わっていることに気付いたり、ほかのわらべうたにも関心をもったりすることができるようにしましょう。</p>		
学習指導要領との関連		
<p>A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ) (3)音楽づくりア(ア)、イ(ア)、ウ(ア)</p> <p>B鑑賞 ア、イ</p> <p>[共通事項]</p> <p>・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素</p> <p>ア 音色、リズム、旋律、拍、フレーズ</p>		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と旋律や拍などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。（歌・鑑）	思① 音色、旋律、拍、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いたりしている。（歌・鑑）	態① わらべうたに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・づ・鑑）
②技 思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思② リズム、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律遊びを通して、音楽づくりの発想を得ている。（づ）	
③知・技 言葉やわらべうたが醸し出す音の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。（づ）		

題材名	10. みんなで あわせて 楽しもう	扱い時数の目安
		10時間
題材の目標	(1) 曲想と音色や旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能や、互いの歌声や楽器の音を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付ける。 (2) 音色、旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (3) 歌声や楽器の音色、声や音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、友達と一緒に表現する楽しさを感じる。	
題材の意図		
<p>この題材では、2年生の学習のまとめとして、友達と気持ちを合わせて楽しく演奏したり合奏の楽しさを感じ取りながら聴いたりする学習を行います。</p> <p>歌唱や器楽では、これまでの学習で身に付けてきたことを生かし、歌声や楽器の音色、旋律やその組み合わせ方について、自分なりの思いをもちながら表現を工夫することができるようにします。また、互いの声や音を聴き合いながら歌ったり演奏したりする力を養う中で、自分や友達が担当するパートの役割を意識し、音だけでなく気持ちを合わせて演奏することの喜びを味わうようにしましょう。</p> <p>鑑賞では、いろいろな楽器の音色に気を付けて聴き、「反復」や「呼びかけとこたえ」の面白さを感じ取りながら、「音楽を聴くことが楽しい」「好きだ」と思える気持ちを育てていきましょう。</p> <p>2年生での学びを振り返りながら、3年生以降も意欲をもって取り組めるように留意して、学習を締めくくりましょう。</p>		
学習指導要領との関連		
<p>A表現 (1)歌唱ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ) (2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(ウ)</p> <p>B鑑賞 ア、イ</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素</p> <p>ア 音色、旋律、音の重なり</p> <p>イ 反復、呼びかけとこたえ</p>		

題材の評価規準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①知 曲想と音色や旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。（歌・器・鑑）	思① 音色、旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌）	態① 歌声や楽器の音色、声や音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌・器・鑑）
②知・技 楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカ及び低音楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。（器）	思② 音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもっている。（器）	
③技 思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や楽器の音、伴奏を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付けて歌ったり演奏したりしている。（歌・器）	思③ 音色、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑）	
④技 思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌う技能や、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能、互いの歌声を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌）	思④ 音色、旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（歌）	